伊丹公論4面　022904　井❶井❷奥❸藤❹奥❺奥❻井

伊丹俳壇

「春の海」坪内稔典　選
（佛教大学・京都教育大学名誉教授。柿衛文庫理事長）

最優秀賞

春の海あしたの分も手をつなぐ　熊田　啓太（伊丹市）

愛の句。「あしたの分」という表現が切ない。今がとっても大事なのだ。渚を歩いているのだろうか。気の遠くなりそうな穏やかな春の海。

優秀賞

春の海草間彌生に逢ひにゆく　小田　和子（明石市）
軍艦もバナナボートも春の海　堺　紀彦（滋賀県高島市）
仕事場に行きたくなくて春の海　今野　浮儚（大阪府河内長野市）
魚釣りに父を誘って春の海　小松　房子（伊丹市）
弟はアメリカ生れ春の海　平　きみえ（伊丹市）

伊丹歌壇

「靴」尾崎まゆみ　選
（「玲瓏」選者。神戸新聞文芸短歌選者。現代歌人協会会員）

最優秀賞

靴音のひびく廊下を通りぬけ夜をつまびく鳥を放てり　井口　章（和歌山県有田郡）

「夜をつまびく鳥」に立ち止まる。夜を大きな弦楽器に見立ててその琴線を爪弾くのは鳥。どんな調べが聞こえてくるのかを想像するのも楽しいが、夜のなかに鳥(私)を解き放つ、その開放感に惹かれる。

優秀賞

正解のない問題にいつまでも執着してる　靴底のガム　知地　一代（神戸市西区）
トアロードかつかつ音を立て上るトオクカラキタヤツトイツシヨニ　堺　紀彦（滋賀県高島市）
停車場へ急ぎふみ往く霜の路省みすれば続く靴跡　東予　稲村（大阪市西区）
靴だけは定番がありその他は未定不定の荒野である　渦亀　清鹿（西宮市）
ブランコの一番遠くから飛ばし西陽のなかに消えた上靴　田中　短歌（伊丹市）

次回の兼題は、俳壇は「冷酒」、歌壇は「映画」とします。応募は１人各１作品、自作未発表作品に限る。応募締切は、４月15日（必着）。最優秀賞には図書券千円を進呈。左のＱＲコードを利用すると、スマートフォンからも応募できる。問い合わせは、ことば蔵へ。

大人が絵本の読み語りでほっこり

市民企画イベント「ことば蔵で読み語り」

ことば蔵では、年間200回を超えるイベントを開催する。その多くは市民企画のイベントだが、その中で今、注目を集めているのが平日18時30分からの「ことば蔵で読み語り」。大人を対象とした絵本読み聞かせのイベントだ。

絵本はこどもが読むものと考えている方も多いのでは。しかし、企画者の木下豊美さんは「大人だからこそ、絵本の真の魅力や深さを感じ、自分の感性と自然に向き合えるようになる。また、絵と短い言葉によって子どもの頃には気付け無かった、物語からのメッセージを感じ取ることもできる」と話す。

イベント名を「読み聞かせ」ではなく、あえて「読み語り」にしたわけは「絵本は読むものではなく、心で感じるもの。私の朗読で参加者の心へ語りかけて、絵本に癒されてほしいから」。

絵を眺めることで、副交感神経がはたらき、リラックスできる。大人になり、活字を読む機会が増え、仕事や家事で多忙な日々を過ごすようになった。そんな方こそ、このイベントに参加して絵本でいやされてほしい。人生に大きな影響を与える、心のバイブルに出合えるかもしれない。

絵本の読み語りを楽しむ参加者＝ことば蔵交流フロアで

市民企画イベントは、毎月第一水曜日に開催される交流フロア運営会議で生まれる。この会議では、市民と図書館職員が参加して話し合い、実現に向けて協力していく。

参加費や講師謝礼が無料、オープンなイベント、できるだけ読書につながるイベント、などいくつかルールがあるが、ことば蔵でイベントを企画したい方は、ぜひ交流フロア運営会議へご参加を。

交流フロア運営会議ホームページはこちら。

※答え「闘球」

林やよい
伊丹市在住。毎日新聞兵庫版にイラストエッセイ「くるまいすまいる」を連載中。

酔後録 26 杯目

▼お屠蘇とは

少し遠くなったが、正月の話を。「屠蘇」とは正月に呑む酒、というイメージだが、正式な屠蘇は、キキョウ、ボウフウ、サンショウ、ニッケイ、ビャクジュツという5種類の生薬を酒に浸したものらしい。何やら、体には良さそうだが、正直とても美味しそうには思えない。

▼ついつい飲みすぎて…

拙者の今年のお屠蘇は、「鵬」という、鳥取県智頭町、諏訪泉酒造の純米大吟醸でした。もちろん？いただきもの（笑）。純米酒にはこだわるのだが、呑む量が多いため、高価な純米大吟醸には普段、なかなか手が出ない。ありがたく美味しくいただきました。

もちろん、それだけでは済まず、年末年始、よく呑んだ。人間ドックの結果はいかに？

▼で、適量は？

アルコールの代謝能力には個人差があるが、厚生労働省が推奨するのは1日平均純アルコールで20グラム以内だそうだ。

これは例えば、アルコール分15度の日本酒では、166ミリリットルということらしい。カップ酒は通常180ミリリットルだが、これより若干少ない。拙者には無理…。

（ときわ喜多）

元おかみのきまぐれコラム

さくらさくら伊丹の空は

伊丹に梅の名所があった。緑ヶ丘公園の梅林。梅まつりの時には、伝統的日本建築の鴻臚館が開館し、にわかテントでは「甘酒」「ぜんざい」「焼きそば」「盆梅」「南京桃」などが販売され、大いに賑わっていた。

しかし、この梅林はウメ輪紋病で全部伐採となった。残念無念。お世話をしておられた人はなんとも悔しかったでしょう。

私にも、梅の枝に短冊を吊り下げて毛氈でお茶をいただき、楽しいひとときを過ごした思い出がある。

ウメがなくなった林には、市民の方々が桜の植樹をされた。桜の丘見守り隊ができ、毎月1回、桜の樹木の育成と美化活動を行っている。

伊丹ではもともと昆陽池公園、瑞ヶ池公園に桜がたくさん植わっていたが、これに緑ケ丘公園が加わりにぎやかになった。

今年は桜の捕植活動に取り組んでいる。みなさま、どうぞ会員になって桜の丘を満開にしましょうよ。

江戸時代の伊丹の俳人、上島鬼貫が桜を詠んでいます。

鳥は未だ
口もほどけず　初桜

次の2句は現代の作品。

桜散る
あなたもかばに
なりなさい　（稔典）

太陽の
塔の爆発
桜咲く　（平きみえ）

◇　◇

令和2年3月27日、午後2時から鬼貫の桜、伊丹の桜の座談会を柿衛文庫で開催します。みなさまのご来場をお待ちいたしております。

（平きみえ）